

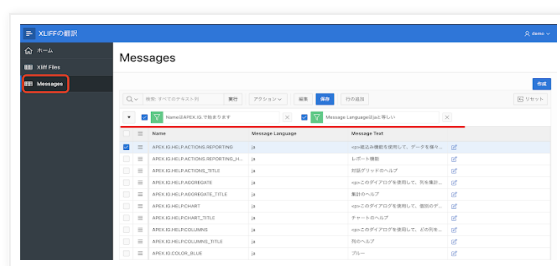
日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年5月31日 月曜日

翻訳済みの文字列を変更する

Oracle APEXの標準コンポーネントが表示している文字列は、コンポーネントとしてはキーとなる名前を持っているだけで、実際に表示している文字列はWWV_FLOW_MESSAGES\$から取り出されています。[XLIFFファイルの翻訳アプリケーション](#)を作成していると、以下のレポートを表示することができます。



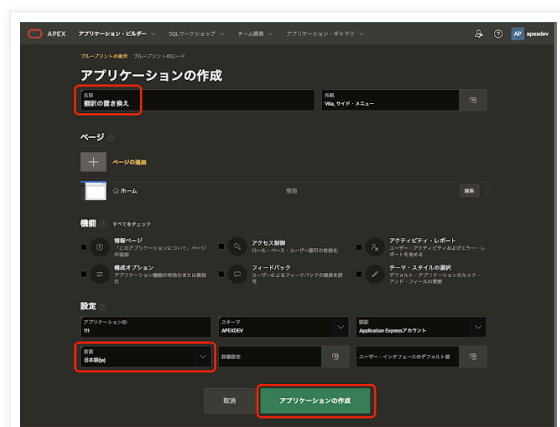
Name	Message Language	Message Text
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE	ja	この画面は標準的な対話グリッドです。ページを移動する。
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE_TITLE	ja	レポート・編集
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE_TITLE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE_TITLE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE_TITLE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE_TITLE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE	ja	対話グリッドのヘルプ
APEX.IG.ACTIONS.DEFAULTPAGE_TITLE	ja	対話グリッドのヘルプ

例えば、対話グリッドのメッセージの名前は概ねAPEX.IG.から始まります。対話モード・レポートはAPEXIRから始まります。

これらのメッセージを、**共有コンポーネントのグローバル化**に含まれる**テキスト・メッセージ**として設定すると、**アプリケーションに設定した文字列が、システムのデフォルトより優先されます。**

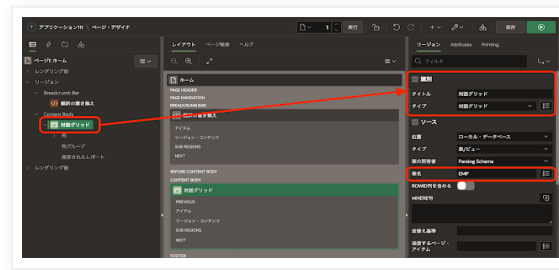
実際に置き換えてみて確認してみます。以下の操作は、サンプル・データセットのEMP/DEPTがインストール済みであることを前提としています。しかし、例として使用する表EMPは、異なる表を使っても同様の操作は可能です。

最初にアプリケーション作成ウィザードを起動し、空のアプリケーションを作成します。アプリケーションの**名前**を**翻訳の置き換え**とします。**言語**(アプリケーションのプライマリ言語)が**日本語(ja)**であることを確認します。**アプリケーションの作成**を実行します。

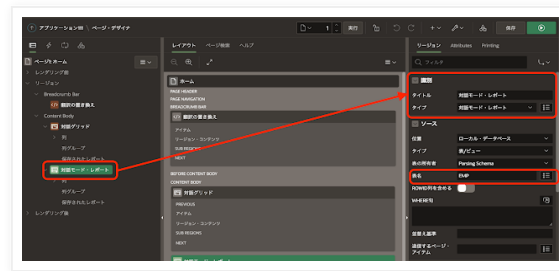


アプリケーションが作成されたら、ホーム・ページをページ・デザイナーで開き、対話グリッドの**リージョンの作成**を実行します。識別の**タイトル**は**対話グリッド**とし、**タイプ**として**対話グリッド**を

選択します。ソースの表名にEMP(EMP以外を選択してもかまいません)を選択します。



対話モード・レポートのリージョンも追加します。**リージョンの作成**を実行し、**識別のタイトル**を**対話モード・レポート**とします。**タイプ**に**対話モード・レポート**を選択し、**ソースの表名**として**EMP**を選択します。



アプリケーションを実行すると、以下の画面が表示されます。今回は、これらのレポートで表示されている**アクション**という文字列を**レポートの操作**に変更してみます。

[illegible]

ある程度Oracle APEXの利用経験がある人たちを想定しているのであれば、標準の文字列を変更すると使い方がわからなくなる可能性はあります。逆に本当のエンドユーザーでAPEXを使った経験はなく、今後もAPEXのアプリケーションを意識して使うことはない人たちを対象としているのであれば、翻訳文字列を置き換えるのは効果があるかもしれません。

アプリケーションが想定している利用者を鑑みて判断するのがよいと思います。

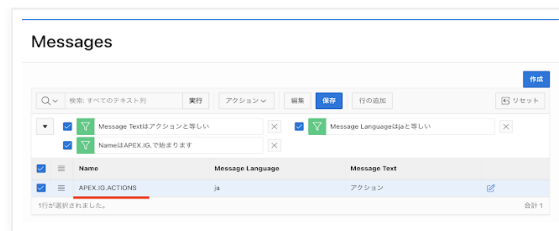
対話グリッドに含まれる文字列は、名前が概ねAPEX.IG.から始まります。XIFF翻訳ファイルのアプリを使って、名前を見つけてみます。

フィルタの条件として、以下を指定します。

NameはAPEX.IG.で始まります。

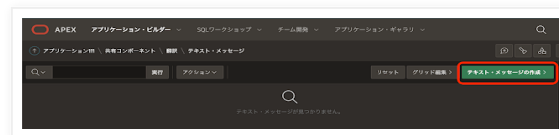
Message Languageはjaと等しい。

Message Textはアクションと等しい。



NameとしてAPEX.IG.ACTIONSが見つかりました。

共有コンポーネントのテキスト・メッセージを開きます。作成済みのテキスト・メッセージの一覧よりテキスト・メッセージの作成を実行します。



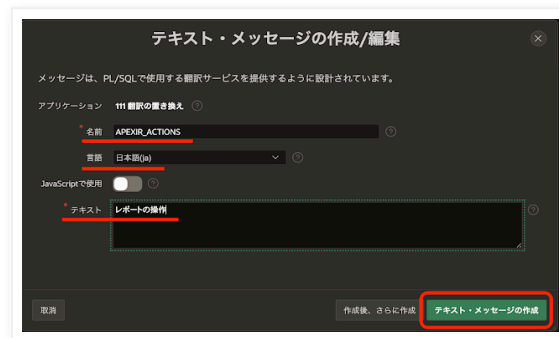
名前としてAPEX.IG.ACTIONSを指定します。言語には日本語(ja)を選択します。JavaScriptで使用はOFFのまま(ここで設定しても、システムとしてAPEX.IG.ACTIONSに定義されている設定に変更されます)、テキストはレポートの操作に変更します。テキスト・メッセージの作成を実行します。



名前APEX.IG.ACTIONSがテキスト・メッセージとして作成されます。



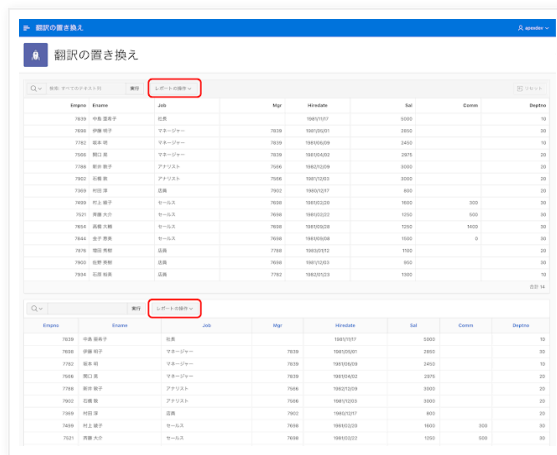
同様にして名前がAPEXIR_ACTIONSのテキストもレポートの操作に変更します。



テキスト・メッセージとして作成されます。JavaScriptで使用の属性は、双方OFFを指定していますが、結果として、APEX.IG.ACTIONSははい、APEXIR_ACTIONSはいいえになっていることが確認できます。



ホーム・ページをリフレッシュすると、**アクション**となっていたメニューが**レポート**の操作に変わっていることが確認できます。

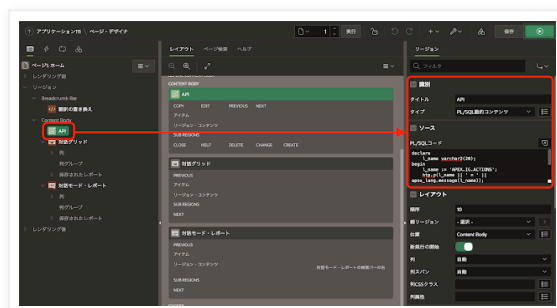


翻訳済みテキストを取得するPL/SQL APIは、**APEX_LANG.MESSAGE**です。このファンクションの実行結果も確認してみます。

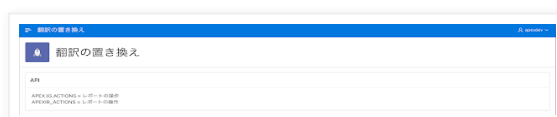
タイプが**PL/SQL動的コンテンツ**のリージョンを作成し、以下のコードをソースの**PL/SQLコード**に記述します。

```
declare
  l_name varchar2(20);
begin
  l_name := 'APEX.IG.ACTIONS';
  http.p(l_name || ' = ' || apex_lang.message(l_name));
  http.br;
  l_name := 'APEXIR_ACTIONS';
  http.p(l_name || ' = ' || apex_lang.message(l_name));
end;
```

リージョンの**識別のタイトル**は**API**としました。

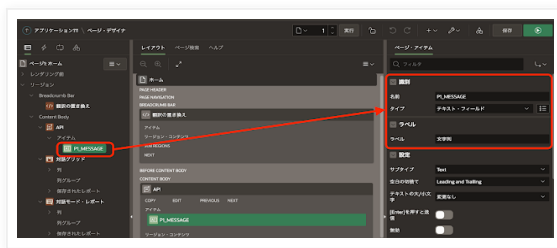


ページを実行すると、APIの呼び出しでもアプリケーションに作成したテキストが優先されることが確認できます。

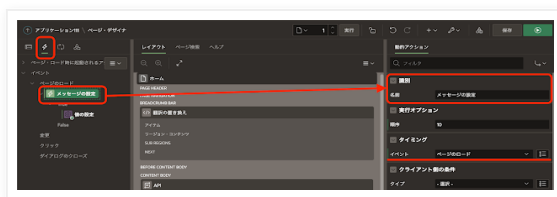


翻訳文字列を扱うJavaScript APIは[apex.lang.getMessage](#)です。こちらを確認してみましょう。

先程作成したリージョンAPIにページ・アイテムの作成を行います。識別の名前をP1_MESSAGE、タイプをテキスト・フィールドとします。ラベルは文字列とします。

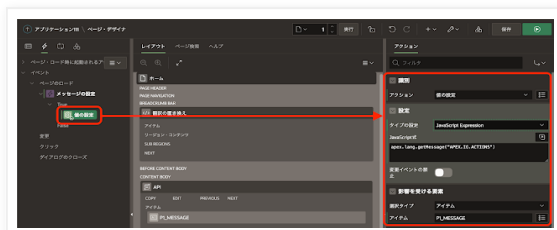


動的アクション・ビューを開き、ページのロードで動的アクションの作成を行います。識別の名前はメッセージの設定とします。タイミングのイベントはページのロードになります。

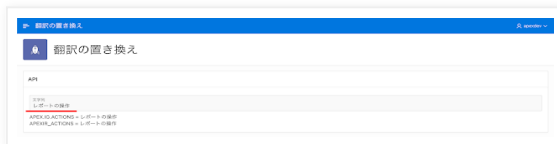


Trueアクションとして値の設定を指定します。設定のタイプの設定はJavaScript Expressionを選択し、以下のJavaScript式を記述します。影響を受ける要素は選択タイプをアイテムとし、アイテムにP1_MESSAGEを指定します。

```
apex.lang.getMessage("APEX.IG.ACTIONS")
```



以上で、JavaScript APIを使った確認ができるようになりました。ページを実行します。



引数をAPEX.IG.ACTIONSとしたapex.lang.getMessageの結果が、レポートの操作になっていることが確認できます。APEXIR_ACTIONSはJavaScriptで使いがよいので、JavaScript APIでは参照できません（対話モード・レポートはJavaScriptでの実装ではないので、JavaScript APIから参照する必要はありません）。

確認に使用したアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/translated-message.sql>

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.